

わが

みんなのでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌

みなとまち留萌

留萌市は、北海道の北西部に位置し、西には日本海、南北には暑寒別天売焼尻国定公園が連なり、暑寒別山系をはじめ夢の浮島といわれる天売・焼尻が望めます。特に晴れた日には、遠く利尻の島影が夕日の輝く日本海に浮かぶ姿が見られる風光明媚なまちです。また、豊かな自然に恵まれた本市は、海と山の新鮮な旬の幸が集ま



全てのものを染めつくす「黄金岬海浜公園」の夕日



重要港湾に指定された「留萌港」

り、タコ・ヒラメ・ウニなどの海産物や、道内屈指の高品質米など、四季折々の食彩が豊富です。アイヌ語で「潮の静かに入るところ」という意味を持つ「ルモツペ」と呼ばれていた地に流れる留萌川の河口付近にアイヌ民族の集落が形成され、慶長年間に交易場所「ルモツペ場所」が開設されました。サケやマス、昆布などの取引が活発に行われ、好漁場として当時の大型船が集まったことから、河口付近の整備が進められました。これが現在の留萌港の基礎となっています。明治43年からの北海道拓殖計画事業により築港工事が始まり、石炭の積出港として発展した留萌港は、昭和27年に重要港湾に指定され、現在は、旭川市を中心とする上川・空知地方の産業・生活物資の海上物流拠点として、また、日本

海を漁場とする沿岸漁業の基地として重要な役割を担っています。 **かずの子のまち留萌** 本市は「塩かずの子加工生産日本一」を誇り、その歴史は古く、昭和32年ごろまでは、留萌近海で捕れるニシンを加工していました。ニシンが水揚げされなくなっただけでなく、加工技術を絶やすことなく、原材料をカナダなどから輸入し、品質を継承してきました。かずの子は、正月の縁起物としておせち料理に欠かせません。近年では、代表的な塩かずの子や味付けかずの子に加え、市内企業のアイデアにより、「カズチー」という名の薫製かずの子とチーズの組み合わせや、マヨネーズあえなど、バリエーション豊かなかずの子加工品が販売され、普段の食事

を彩る一品として食卓に登場する機会も増えています。平成27年10月、北海道水産加工協同組合連合会により、子ども健やかな成長を願う「5月5日・こどもの日」にちなみ、子孫繁栄の縁起物でもあるかずの子を食べ、改めて両親（二親＝ニシン）に感謝する日本の食文化を継承していく日として「かずの子の日」が制定されました。また、平成28年には議員提案により「留萌市かずの子条例」が制定され、消費拡大と地域経済の活性化、郷土愛の醸成などに取り組んでいます。



加工生産日本一を誇る「かずの子」

音楽合宿のまち留萌 「地域ぐるみのおもてなし」

本市では、一般社団法人留萌青年会議所が中心となり、平成26年度から、市外の中学・高校などの吹奏楽団体の合宿を受け入れる「音楽合宿」の取り組みを行っています。

市内の公共施設などで寝泊まりしながら、音楽ホールや併設された体育館で練習を行う団体の方々ととって、留萌で過ごす時間が少しでも心に残るものとなるよう、飲食店組合や町内会婦人部の協力を得ながら、港町ならではの新鮮な海産物を用いた食事によるおもてなしや、楽器や参加者の移動に市内バス会社やタクシー会社が協力するなど、音楽に青春を懸ける方々を地域ぐるみで支援しています。



音楽合宿での音楽ホールを使用した練習

留萌青年会議所によるこの取り組みは、平成27年度に公益社団法人日本青年会議所主催で開催された地域再興政策コンテストにおいて、最高賞である内閣府特命担当大臣大賞を受賞し、地域コミュニ

ニティの活性化や地域間交流を促すだけでなく、参加した学生が市内の企業に就職するなど、さまざまな効果をもたらしています。

また、平成30年度には、音楽分野専門の地域おこし協力隊を採用するなど、音楽合宿を含め地域の音楽文化の振興を図っています。

「道の駅るもい」 オープンに向けて

この春、高規格幹線道路深川・留萌自動車道「留萌IC」が開通し、北海道で初めて高規格幹線道路が全線開通したことを契機に、都市間を結ぶ高速ネットワークの形成による新たな流入人口の広域交流拠点として、約7・8haの都市公園を有した「道の駅るもい」の6月オープンに向けて準備を進めています。

道の駅では、留萌地域への玄関口として、地域情報の集約・発信のほか、アンテナショップの開設や、産直イベント「うまいよ！るもい市」の開催により、地域の優れた産品などの販売促進・PR、さらには、広大な都市公園を活用し、親子でゆっくり時間を過ごせる空間として、今後、カフェ機能

も兼ね備えた全天候型の「屋内交流・遊戯施設」を整備し、家族連れで訪れていただけるような環境づくりを目指していきます。

また、隣接する重要港湾留萌港を「みなとオアシス」に登録し、交流や休憩機能を有した憩いの場として、市民や来訪者に留萌の魅力を再認識してもらえるような、人が集う親しまれる港づくりに取り組んでいきます。

プロフィール

- ◆ 面積 297・84km²
- ◆ 人口 2万644人
- ◆ 世帯数 1万1373世帯

〔将来都市像〕住んでみたい、住み続けたいまちとして、人々が誇りの持っているまち

〔まちの特徴〕塩かずの子加工生産日本一を誇る、海と山の新鮮な旬の幸が集まる自然豊かなまち

〔特産品〕かずの子、糖にしん、南るもい産米、「ルルロツソ」を用いたパスタ



留萌市長
中西俊司



〔観光〕黄金岬海浜公園、ゴールデンビーチるもい、千望台、留萌市海のふるさと館、礼受牧場、旧留萌佐賀家漁場〔イベント〕るもい呑涛まつり、やん衆盆踊り、かずの子のまち留萌フェスタ、るもいシーサイドキャンプ、うまいよーるもい市

留萌の食を東京でも

都市部における情報発信の役割も担い、東京都に2店舗を構える「北海道留萌マルシェ」では、新鮮な海産物や超硬質小麦「ルルロツソ」など、本市をはじめ、留萌地域の食材にこだわった飲食を提供しており、留萌の味覚を存分に楽しむことができますので、ぜひお訪ねいただきたいと思っています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人間を大切に
するまち
くにたちの実現に向けて魅力あふれるコンパクト
シティにたち

国立市は、東京都の中央部に位置し、市の北部にあるJR国立駅へは新宿駅から32分、東京駅から45分と都心からのアクセスに恵まれています（いずれも中央線快速昼間利用の目安です）。面積は約

8.15km²（東西に約2.3km、南北に約3.7km）と全国の市の中で4番目に小さい自治体で、徒歩でも自転車でも回遊できるコンパクトな大きさがまちの魅力の一つです。

この小さな都市の中には、甲州街



まちのメインストリートである大学通り

道の街村集落として発祥した伝統ある南部地域と、大正末期に計画的に開発され、戦後の環境浄化運動を経て昭和27年に指定された文化の香り漂う「文教地区」の市街地が共存し、異なるさまざまな魅力にあふれています。中でもJR国立駅から南へ真つすぐ伸びる大学通りは、幅員が約44mあり、まちのメインストリートとして市内外を問わず親しまれています。現在、その道の両側のグリーンベルトには、桜とイチヨウの木が交互に植えられ、春には桜の花びらのカーテンがまちをピンク色に染め、夏には鮮やかな緑が青々と生い茂り、秋にはイチヨウの葉が黄金色の輝きを放ち、冬にはイルミネーションの瞬く光が大学通りを優しく包みます。この景色は、「新東京百景」にも選ばれ、くにたち

の象徴となつていきます。また、水や緑が豊かな田園風景が残る南部地域には、関東三大天神の一つである谷保天満宮や、本年3月に東京都指定有形文化財に指定された本田家住宅などの価値ある文化財が多数点在しています。

ソーシヤル・インクルー
ジョンの考えに基づいた
まちづくり

本市では、平成29年1月1日に市制施行50周年を迎え、未来に向かって新たな一歩を踏み出しました。そして、平成31年4月1日には、市民の皆さまと共につくり上げた「国立市人権を尊重し多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」を施行しました。条例の制定過程においては、パブリックコメントや市長とのタウンミーティ

ングを複数回実施し、市民をはじめとした皆さまから大変多くのご意見を頂きました。「人間を大切にしたい」というまちづくりの基本理念の下、ソーシヤル・インクルージョン（すべての人を社会的な孤立や排除から守り、社会の一員として包み支え合い共に生きること）を全施策の根底に据えて、市の発展に取り組んでいます。

さまざまな個性を持つ市民同士が地域で共に暮らしていく上で、それぞれが差別・偏見を乗り越えて多様性を受け入れ、互いの違いを認め合っていくことが不可欠です。人と人とのつながり、歴史・文化・伝統によって培われた本市のアイデンティティをベースに、ソーシヤル・インクルージョンの理念に貫かれた地域社会をつくり上げます。この理想のまちを実現するために重要な要素となる「幼児期の教育」を充実させていくとともに、全ての市民が明るく前向きに過ごすことのできる「市民の日常に寄り添う行政」、市民がまちに



国立市平和都市宣言を行った6月21日を「くにたち平和の日」と定め、人権と平和をテーマとした催しを毎年実施

誇りと愛着を持つことのできる「訪れてみたいまち」を都市政策として、安心・安全で魅力ある文教都市くにたちを目指しています。

旧国立駅舎の再築と開業

さて、本年4月に、長い間市民の皆さまに「まちのシンボル」として愛され続けてきた、赤い三角屋根の旧国立駅舎が再びまちに帰ってきました。大正15年、国立大学町に誕生した旧国立駅舎は、まちを歩き交う人々を80年間見守ってきました。しかし、平成18年、JR中央線連続立体交差事業



本年4月6日に開業した旧国立駅舎

に伴い、惜しまれつつも解体され、駅舎としての役目を終えました。しかし、木造の大正期の駅舎として大変希少であったことや、学園都市計画の中で重要な位置にあった歴史的環境などを理由に、解体と同年に市指定有形文化財に指定し、そして、将来再築する際に使用するため、主要な部材は大切に保管してきました。その後、多くの皆さまから再築を望む声や全国の方々からの多大なご寄付を受け、ほぼ元の位置に創建当時の姿で再築するため、平成30年より工事を開始しました。再築後の旧国立駅舎は、開業当時の間取りを生かして、「広間」「まち案内所」「展示室」を持ち、さまざまな出会いが生まれるまちのラウンジ、

まちの情報が集まり広がるべくにたちと出会う玄関口、そして文教都市にふさわしい歴史・文化・芸術の発信拠点、をコンセプトに「まちの魅力発信拠点」として新たに開業しました。

今日まで応援してくださった皆さまに心より感謝し、旧国立駅舎とともに魅力あるまちづくりをこれからも目指し、取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 8・15 km²
- ◆ 人口 7万6242人
- ◆ 世帯数 3万8218世帯

〔将来都市像〕学び挑戦し続けるまちとともに歩み続けるまち 培い育み続けるまち 文教都市くにたち

〔まちの特徴〕整然とした市街地と緑豊かな田園風景が共存する景観にすぐれたまち

〔特産品〕ほうれん草、小松菜、トマト、ナス、天神米、日本酒、多摩川梨、



国立市長 永見理夫



朝顔、くにたち style

〔観光〕旧国立駅舎、大学通り、さくら通り、城山公園、ママ下湧水、矢川おんだし、谷保天満宮

〔イベント〕くにたち秋の市民まつり、天下市、LINKくにたち、国立まとも、くにたちさくらフェスティバル、くにたち朝顔市、旧車祭



“まちの魅力発信拠点”としてイベントなども実施予定の旧国立駅舎の「広間」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

豊かな自然と住みよい街並みが 共存する学園都市 日進

多様なまちの魅力と 高いポテンシャル

日進市は、愛知県のほぼ中央部に位置し、西は名古屋市、東は豊田市に隣接し、名古屋市営地下鉄鶴舞線や名鉄豊田線、国道153号線などにより都市部へのアクセ



豊かな自然と都市機能が共存

スに優れた立地となっています。

市の東部には緑豊かな丘陵地が広がり、中央には二級河川の天白川が流れ、その流域にはのどかな田園風景が広がるなど、四季の移ろいを体感できる豊かな自然が残る一方で、区画整理事業により市街地には洗練された住宅や大型商業施設が立ち並んでいます。

また、各地域には昔ながらの温かいコミュニティが育まれているとともに、NPOなどによる市民活動も盛んです。

そして市内には、愛知学院大学、椋山女学園大学、名古屋外国語大学、名古屋学芸大学、名古屋商科大学の五つの大学がキャンパスを構え、約2万人の学生が学んでいます。

このように本市は、都市近郊にありながら緑豊かで快適な住環境

に恵まれ、自然と調和した住宅都市として、また学園都市として、多様な魅力にあふれ、高いポテンシャルを秘めたまちとして発展を続けています。

産官学や近隣自治体との 積極的な連携

本市は、大学の持つ知的財産や人材、学生の力といった資源を活用すべく、市内外の9大学と連携協力協定を結び、大学と連携したまちづくりを進めています。

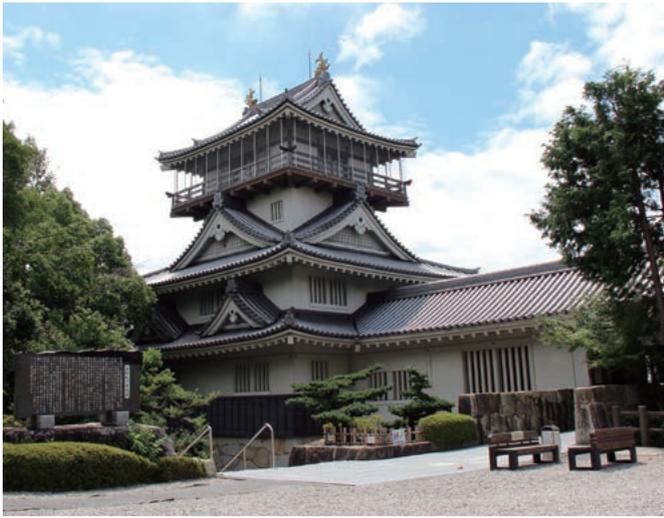
具体的には、大学からの提案事業を募集する「提案型大学連携共同事業」や、子どもたちが大学のキャンパスで大学の先生から専門的・学術的な内容を面白く分かりやすく学ぶことができる「こども大学につしん」などを実施しています。



多くの大学が立地し、多様な学生が学ぶ「学園都市」

また、民間企業の技術やノウハウを取り入れることで、地域の活性化と市民サービスの向上を図っていくため、企業との連携にも積極的に取り組んでいます。これまでに4社の企業との間で「地域活性化包括連携協定」を締結し、各施策にさまざまな形でご協力をいただいています。

また、子育て世代の転入が増え、毎年千人近くの子どもが誕生する本市では、子ども・子育て支援事業のさらなる充実が求められています。そこで「日進市子育て支援等の官民連携に関する提案募



日進市の戦国時代の様子を今に伝える「岩崎城址公園」

集」事業を実施し、これまでに情報・通信企業など3社の企業との間で協定を締結しました。それにより、保育園への防犯カメラの設置や、情報発信および成長発達の記録管理などができるアプリ型の子育て世帯支援システムの導入も進めています。

さらに、本市では近隣市町との自治体間連携も進めています。自治体の持つ経営資源は限られており、近隣自治体との連携、協力が大変重要だと考えます。そこで本市では「尾三地区自治体間連携協力に関する基本協定」を締結し、

これまでに消防の広域化（一部事務組合の広域化）や電力の共同購入、介護保険事業所の指定・指導監督事務の共同実施や消費生活センターの共同設置などを実施し、行政コストの削減や市民サービスの向上を図っています。また、愛知警察署と本市を含めた管内4市町との協定に基づき、本市では、全ての公用車にドライブレコーダーを搭載し、防犯カメラとしても活用することにより、犯罪や事故発生後の早期解決に協力していきます。そして、職員派遣交流事業により、自治体間の情報やノウハウの共有、職員同士の交流も進めています。

将来の10万人都市を見据えたまちづくり

そういつた中で、本市の魅力をさらに高め、誰もが住みたいと思えるまちへと前進させるためには、将来を見据えた投資が欠かせません。

住宅地の供給や企業の誘致などにより、地域経済の活性化を図り、活力も財力もある元気なまちを目指す必要があります。

スマートインターチェンジや道

の駅、東部地区企業団地の整備など、将来の10万人都市を見据えた各種施策へ機をためらうことなく果敢に投資し、シティプロモーションやシティセールスにもつなげていきたいと考えています。そのためにも、これまでの行政のやり方にとらわれず、チャレンジ精神を持ってまちづくりを進めていきます。その要となるのは何よりも「人づくり」であると考えます。私は、市長に就任して以来、全課、全施設を回り、職員とのコ

プロフィール

- ◆ 面積 34・91km²
- ◆ 人口 9万1552人
- ◆ 世帯数 3万7376世帯

〔将来都市像〕いつまでも暮らしやすい みどりの住環境都市

〔まちの特徴〕自然環境に恵まれ、従来の地域コミュニティが残りながら、快適で高い都市機能を楽しめるまち



日進市長
近藤裕貴



〔特産品〕あいちのかおり（米）、プチヴェール（野菜）、泉流（日本酒）

〔観光〕岩崎城址公園、愛知牧場、レトロでんしゃ館、旧市川家住宅、五色園

〔イベント〕日進市岩崎城春まつり、にしん市民まつり、にしん夢まつり、にしんわいわいフェスティバル

コミュニケーションを図ってききました。今後も日頃から職員との対話を大切にし、共に汗をかきながらチャレンジしていきたいと考えています。

また、本市では日頃から多くの市民が生き生きと活動しており、「人」が輝いていると感じています。自治基本条例に掲げる「市民主体の自治」の実現に向け、今後もしびっくプライドの醸成を図りながら、市民と共にまちづくりに取り組んでいきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

ちくしの
筑紫野市（福岡県）

筑紫野市長

ふじたようぞう
藤田陽三

わが

「ひかり輝くふるさと」を
目指して自然と温泉に恵まれた
住宅都市

筑紫野市は、福岡県のほぼ中央部、西寄りに位置しており、西側は佐賀県に接しています。市の東西には山林や田畑といっ



九州最古の寺、武蔵寺などで開催する「二日市温泉 藤まつり」

た緑豊かな景観が広がり、九州北部と内陸部をつなぐ平野部には鉄道や国道など主要幹線が集中して縦断しています。福岡都心部へのアクセスが良く、沿線には市民が暮らす住宅地や商業地、工業地が広がっています。

古事記には九州を表す「筑紫島」が記されており、「筑紫」の名称はかつて九州の総称であり、本市はその中心であったことがうかがえます。他にも、万葉集に詠まれた二日市温泉や、菅原道真公が天に無実を訴えたと言われる天拝山、古刹武蔵寺のほか、近年は阿志岐山城跡や宝満山といった史跡が相次いで国の指定を受けるなど、文化、歴史の薫るまちです。

こうした交通の利便性や快適な生活環境が自然・歴史・文化と相まって、定住の地、子育ての地と

して選んでいただいている人も増えており、人口は増加を続けています。

コミュニティによる
まちづくり

一方で、人口推計によると、数年後には人口が最大となり、その後、減少に転じる見込みとなっています。急速に進む高齢化や少子化に加え、こうした人口減少に対応するため、本市では安全安心のまちづくりや地域の支え合いの基盤として、市内を七つのコミュニティ区域に分け、それぞれで運営協議会を設立。市と対等な立場でパートナーシップ協定を締結し、さまざまな地域課題の解決に向けた取り組みを進めています。平成31年1月から運行を開始した「御登自治会バス」は、地域住民自

らが運転手となり、地域の買い物支援などを行っています。その他にも、それぞれのコミュニティでは自治会やボランティア、NPOなどが団体の枠を超えて、地域づくりのために多様な分野にわたって活発な活動を行っています。

命を守るまちづくり

本市の中心市街地を流れる高尾川は、川幅が狭く、豪雨により過去10年で5回の浸水被害をもたらしました。周辺には家屋や店舗が



築造が進む高尾川の地下河川

立ち並んでいるため被害は大きく、抜本的な対策に向けて地元の「高尾川・鷺田川改修促進期成会」と共に県や国との協議を重ねた結果、川からあふれた水を流すための地下河川を築造する事業が国において採択されました。蛇行する河川の直下にトンネルを掘る工事はあまり例がありませんでしたが、順調に進捗しています。本年度の出水期前には運用を開始する予定となっており、災害に強いまちへ着実に進んでいます。

安心して暮らせる まちづくり

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」を見据えて、地域包括ケアシステムの構築を進めています。

地域住民による健康づくりのため活躍していただいているのが「筑紫野市健康づくり運動サポーター」の皆さんです。1年間の養成講習を受けた市民が地域の健康教室に向き、ストレッチやゲーム形式のレクリエーションなどを楽しんでいます。平成18年度に1



口コモ予防運動を指導する赤いユニホームのサポーター

期生の養成が始まったサポーターは、現在、約140人が地域で生き生きと活躍しており、市民による、市民のための健康の維持・向上、介護予防につなげています。また、要介護状態や認知症になっても、これまで通り住み慣れた地域で過ごせるように、医師会と連携した医療・介護の取り組みを強化しています。「ものわすれ・あんしんサポートチーム」の活用や、「認知症サポーター養成講座」、コミュニティを中心に実施している認知症の方への「声かけ訓練」などの取り組みを進めています。

活発な市民と共に

このように本市では、市民協働によるまちづくりを積極的に進めており、多くの皆さまにご協力をお願いいただいています。

市長就任以来、実施している「移動市長室」は、さまざまな分野でまちづくりのために活動している団体を対象に開催し、多くの皆さまと意見を交わしてきました。開催は間もなく100回を迎え、活

プロフィール

- ◆ 面積 87・73 km²
- ◆ 人口 10万4171人
- ◆ 世帯数 4万5237世帯



筑紫野市長
藤田陽三

〔将来都市像〕自然と街との共生都市
ひかり輝くふるさと ちくしの
〔まちの特徴〕古来より人と物、文化の交わる交通の要衝として栄え、深い歴史と豊かな自然を併せ持つまち
〔特産品〕博多和牛、シヨウガ、博多



ブロッコリー、博多アスパラガス、白ネギ、キクイモ、しょうゆ、米、麦
〔観光〕二日市温泉、武蔵寺、天拝山、宝満山、筑紫神社、五郎山古墳
〔イベント〕二日市温泉 藤まつり、二日市温泉と天拝山観月会、ちくしの人形劇まつり、天拝山ロードレース大会

動内容やその思いを直接聞くことで、新しい視点に気付いたり、まちづくりへの思いを新たにしています。さらに、意見交換の様子や団体の活動を広報紙に掲載するなど、市民に周知することで、団体の意欲の向上につながっています。これからも活発な市民の皆さまと共に「住みたい、住み続けたい」と実感していただけるまち、「ふるさと」として誇れるまちづくりを進めていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。